

高校生16歳の冒険 ばあば74歳の冒険



今年の夏休みはタイから日本人が減りました。一時帰国ラッシュ。二年ぶり、三年ぶりに日本の家族に会えた人たちはうれしかったでしょうね。我が家は上の二人の子と末っ子の夏休み期間に大きくズレがあり、私は一時帰国を断念。高校生の長男が一人で帰国しました。日本から持ってきてほしいものリストを託され、妹・弟からはお土産をせがまれ、親族の家に挨拶に行き、大学見学もしてくるというミッションを背負つて。航空券などは私が手配しているし、コロナ禍の海外渡航手続きは格段に楽になつたとはいえ、飛行機に一人で乗るのは初めて。空港ではちょっとした冒険に出るような顔つきでした。いつもぎやあぎやあ喧嘩している兄弟で手を握りあつたりしちゃうて。

日本で彼が一番会いたかったのは部活の仲間だったのですが、部活内でクラスター発生とのこと。会えなかつたのは残念だけど、これも「時世ですね。」

部分を思い出したり、「こんななんだつた?」と老いを感じることもあつたり。私はまめじやないし口下手だから、用事がなければ両親に電話をしないタイプ。感謝の気持ちも口に出せません。だから行動で示していくつもりなのですが、母の言葉を聞く限り、伝わってないんだなあ。だから親孝行はいつまでもできないけれど、母を旅行に連れて行った回数だけは、もう悔いがないです。

私が中学生の頃、父の勤続何十年かの休暇を利用して、両親は二人でヨーロッパ一周旅行に申し込みました。海外旅行など縁もない夫婦でした。海外旅行など一度の大旅行のつもりでした。それが直前に私が高熱。母は一日前に旅行をキャンセルしました。

そのことがいつまでも私の心の中に引っかかっていて、社会人になってからは、頻繁に母を旅に連れ出すようになりました。

今年の夏休みはタイから日本人が減りました。一時帰国ラッシュ。二年ぶり、三年ぶりに日本の家族に会えた人たちはうれしかったでしょうね。

我が家は上の二人の子と末っ子の夏休み期間に大きくズレがあり、私は一時帰国を断念。高校生の長男が一人で帰国しました。日本から持ってきてほしいものリストを託され、妹・弟からはお土産をせがまれ、親族の家に挨拶に行き、大学見学もしてくるというミッションを背負つて。航空券などは私が手配しているし、コロナ禍の海外渡航手続きは格段に楽になつたとはいえ、飛行機に一人で乗るのは初めて。空港ではちょっとした冒険に出るような顔つきでした。いつもぎやあぎやあ喧嘩している兄弟で手を握りあつたりしちゃうて。

日本で彼が一番会いたかったのは部活の仲間だったのですが、部活内でクラスター発生とのこと。会えなかつたのは残念だけど、これも「時世ですね。」

続けてきた母との二人旅

母はその後四週間、バンコクの我が家に滞在。住んでいるのはこんなところだよ、と母に見せることができました。孫三人に「ばあば、ばあば！」と絡まれながら、賑やかに久しぶりの同居。一方で、反りが合わなかつた長男の方。形勢逆転です。

それでもほかのたくさんの方達と一緒に、親のいないところまで羽目を外すかも考えたりしたのかな。日本の学校を退学し、彼は退路を断つてタバコ(私の母)を連れてタイに戻つてくること。数年前まで二人でいれば保護者はばあばの方だったのに、頼りになるのはどちらかといえばもう長男の方。形勢逆転です。

文・写真
小宮華寿子
二男一女の母で
編集者。「プラ」と
ジルの手しごと
(メイツ出版)著者。世界の雑貨と
ワークショップの店「マルカジーニョ」
(<https://mercadinho.net>)代表。

イラスト・
デザイン
寺沼麻美
切り絵作家、時々
デザイナー。「ゆ
らゆらゆれる北歐風手作りモビ
ール」(ネコ・パブリッシング)を監修。

まずは家族プラス母の六人で隣国カンボジアへ。カンボジアからタイに帰つて一日だけ洗濯休憩したのち、今度はラオスへ母と私の二人だけで。なかなかタフな七十四歳でしょう。うちの旅行は高級なものではないので、食事はローカル食堂、移動はトウクトゥク(三輪タクシー)。本人は「コロナ禍で滞っていた脳に刺激があつてボケが止まつた」と言つていました。

これまで続けてきた母娘二人旅。海外はさすがにこれで最後になるかもしれないなあと、なんとなく。きっとこれからもお互いに優しい言葉は掛け合いませんが、今後はゆっくりと温泉にでも行くようになりたいです。